

国語 第5学年 ロボットとの未来について考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

ロボットの働きについて文章と資料を結び付けて読み、弱いという語の使われ方と、人との関わりについて考える。性能が低いと決め付けず、事例が何を示すために書かれているかを確認する。単元の終わりに残すのは、ロボットと人との関係への意見メモ。弱いという語の意味、事例と資料、賛成・疑問・条件、自分の考えを記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)ウ	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(2)ウ	ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

単元の目標

文章と資料の情報を整理し、必要な箇所と出典を記録できる。文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめられる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章と資料の情報を整理し、必要な箇所と出典を記録している。（〔知識及び技能〕(2)イ）	①「読むこと」において、文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめている。（C(1)ウ・C(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全6時間（読む6）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名への印象を書き、全文と資料を読む。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○ロボットの事例と書き手の考えを整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本 時）	○文章と資料を対応させ、弱いという語の意味を考える。	思①（発言・学習記録）
	4	○人との関わりへの根拠を添えて自分の考えをまとめる。	学習状況を見て支援する。
	5	○図書で確かめたいことを調べ、本文と追加資料を分けて話し合う。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○意見を直し、文章と資料を合わせて読んだことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「ここで「弱い」と表されているのは、どんな意味でしょう。文章と資料のどこを基に、人との関わりを考えましたか」 【めあて】ロボットの働きについて文章と資料を結び付けて読み、弱いという語の使われ方と、人との関わりについて考える。 〈予想される児童の反応〉 ・できないことがあるために人が関わる場合がある。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「ここで「弱い」と表されているのは、どんな意味でしょう。文章と資料のどこを基に、人との関わりを考えましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・できないことがあるために人が関わる場合がある。 ・全てを代わりにしてくれることだけが働きではない。 ・資料と本文を合わせると事例のねらいが分かる。	本文の事例、資料が示す情報、書き手の考えを分けて対応させる。写真から確かめられない効果は推測として記す。未来のロボットを創作する前に本文への考えをまとめる。 想定する難しさ：弱いという語を悪い性能と同じだと考える。本文にないロボットの能力や効果を加える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・資料と本文を合わせると事例のねらいが分かる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「ここで「弱い」と表されているのは、どんな意味でしょう。文章と資料のどこを基に、人との関わりを考えましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、弱いという語を悪い性能と同じだと考える。本文にないロボットの能力や効果を加える。この場合は、本文の事例、資料が示す情報、書き手の考えを分けて対応させる。写真から確かめられない効果は推測として記す。未来のロボットを創作する前に本文への考えをまとめる。おおむね満足できる状況は、文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

ロボットと人との関係への意見メモ。弱いという語の意味、事例と資料、賛成・疑問・条件、自分の考えを記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当数・時期・重点項目の出典。（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

